

「学校を地域に取り戻せ」 - 株式会社の実践

すぎなみ大人塾・夜コース

第二章 地域みんなの学校づくり 平成 18 年 9 月 27 日

講師：美川特区アットマーク国際高等学校校長 日野公三さん

「学校を地域に取り戻せ～株式会社の実践～」

日野公三さんのプロフィール

1982 年、岡山大学法学部経済学科卒。リクルートに入社後、29 歳で独立。第三セクター再生の仕事に携わっていた当時、教育現場においての不登校生の多さに着目し、1999 年(株)アットマーク・ラーニングを設立し、インターネットハイスクールを立ち上げる。翌年にはアットマーク・インターハイスクールを設立。2004 年、国の構造改革特区認定を受けた美川特区アットマーク国際高等学校を設立し、生徒の自学自習力の育成を目指して運営している。主な著書に『インターネット教育革命』(PHP 研究所刊)、『ティーチングからコーチングへ』(BNN 新社刊)がある。

日野公三さん：

今日は昼間、石川県にあるアットマーク国際高等学校の本校で、1 年に一回の学校審議会がありまして審議を受けて来ました。学校の事務本部は品川にあります。今日はとんぼ返りで、この時間に間に合いました。今日のテーマは「学校を地域に取り戻せ」私どもの株式会社としての 7 年間の実践の事例などもご紹介して、後半は私どもの教職員のスキルであるティーチング力を強くするコーチングの説明をする、生徒のやる気を引き出す事、自己決定力を促すと言うスキルを皆さんに体験をしていただこうと思います。

最初に私どもの紹介をさせていただきたいと思います。現在の取り組みとして、「学校を地域に取り戻せ」という事で、いくつかの教育機関を運営、経営しております。昨年と少し変わったのは、コーチングアカデミーという、教職員の研修機関を作りました。これは、4 年前から細々とやってきたのですが、初級、中級、上級と学習コーチの資格を取得していただくシステムになっています。毎月 1 回、初級研修を 2 日間開催しまして、中級は 1 年間かけて研修をしていただいて、上級は実際に教育の場で実践していただいて、ライセンスを取得していただくというものです。

お手元にお配り致しました資料が、アットマーク・インターハイスクールの資料

「学校を地域に取り戻せ」 - 株式会社の実践

です。アットマーク・インターハイスクールという、通信制のインターナショナル・ハイスクールを運営してきたので、7年間の実績の元に少し生まれ変わってみようと準備を進めてきました。この事については、後でご紹介させていただきます。

美川特区アットマーク国際高等学校とは、2004年9月に石川県で開校した通信制の高等学校で、日本とアメリカの高等資格を発行する学校です。アットマーク・インターハイスクールは、7年前に日本国内では無認可のままスタートした通信制の学校です。ここはアメリカの単位を発行しています。プレップ塾というのは、主に不登校の中学校1年生2年生をお迎えする通信制の学校です。

小学校、中学生の不登校生のお子さんをお持ちのご家庭に対してサポートしようと、日本ホームスクール支援協会というNPOの副理事長もしております。この5つの教育機関、学習機関を運営しております。

自己紹介ですが、10年前に学校を作りたいと思っていました。突然思いついた訳ではなく、いろいろな事が重なりまして、民間の力で学校を作れないかなと株式会社の学校を作り今日に至っております。

前職は、神奈川県が大株主の第3セクターでパソコン通信の、ケイネットとう会社の取締役をしていました。そこで5年間、パソコン通信を通して、不登校の子どもと触れ合ったり、学校に行っていない為に自分自身を尊敬出来ないと言った現実に触れまして、何か自分自身が役に立てないかと、97年にアットマーク・インターハイスクールという、インターネット上の学校を作りました。これが私の創業の原点です。

出資のお願いをした会社数は、出資会社の10倍くらいの数になると思います。わたくしの仕事は資金集めと自分で考えていまして、今でも良い株主を迎えようという事で、こちらがこの株主に迎えたリストを作り、中には1年越しにアタックするという様な事もしています。

後ろ盾は、多ければ多いほど良いというのが私の考え方で、会社は個人が独占したり、個人が権限を振り回すことは、私の理想には程遠いので出来るだけ多くの株主に参画していただいて、民間で学校を運営するという事に取り組んできました。

資本金が現在は3億3千855円です。こう言った形で運営しています。創業の理念は、学習者主体の学校を作りたい。学校都合や教員の都合で、学校を運営するのではなく、あくまでも生徒の都合で運営して見たい。これは一切揺るがない方向でやりたいと今日まで至っております。

エデュケーションとは、福沢諭吉が「開知。つまり知恵を開く」と、訳したので

「学校を地域に取り戻せ」 - 株式会社の実践

すけれどもその原点に立ち返ってみたい。コーチングとは、知恵を開く方法です。ティーチングは教え込むという事ですけれども、教え込みの文化ではなくて、知恵を開く方の文化に少し日本の教育が変わるきっかけが提供出来たら良いなと思っております。

本日の狙いですが、

1)「学校を地域に取り戻す」を皆様に一方通行の講演ではなくて、ご自身で考えていただきたいと思っております。特にこの杉並区は、全国でも注目をされる先進的な教育地域だと思います。教育に対して、住民の方が強い問題意識を持っている。おそらく日本でも、トップクラスではないかと思っております。それなりの見識、知識、それから経験のある方がたくさん住民としていらっしゃる。これは日本では、なかなかない地域ではないかと思っております。

ですから、学校を地域に取り戻すという事をご自身が考えていただくきっかけになれば良いなと思っております。

2)「学校を民間人に取り戻す」活動を7年間してきましたのでその実践を少し知っていただく。

3)何を加えれば「学校を地域に取り戻せるのか」も、少し身近な問題として、皆様お1人お1人に考えていただきたいと思っております。

地域に取り戻す事をご自身で考えていただく為に、その実情、実態を知る。参加者同士が話し合ってみる。そういうきっかけが出来れば良いなと思っております。私どもは、株式会社立学校でやってきたのですけれども、その中でどのような苦労や喜びがあるのかという事も知っていただきたいと思っております。それから地域の教育や学校の歴史から何を学べるのか、特に杉並の学校の歴史は、地域が学校の主体という意味ではいろいろな歴史が埋まっていると思っております。それを今後、どう皆様方が掘り起こすかという事が、重要なのではないかなと思っております。1人1人が学んで来た事等や経験を今後はどの様に活かすのか、生涯教育というのは、一生涯学ぶと言う意味もありますが、一生涯教育の現場に立つという意味もあります。今まで働いていた方が、教壇に立つ事もあるでしょう。教壇に立つ人がどんどん入れ替わるのが、私は生涯教育だと思います。

皆様が子ども達に接する機会も多いと思っておりますのでコーチングの基礎をご披露して行きたいと思っております。後半は、実際にコーチング演習をしていただきたいと思っております。

まず、私どもの活動の実践を紹介したいと思っております。「教育の歴史的实践」これは

「学校を地域に取り戻せ」 - 株式会社の実践

3月に申し上げた事なので、2回目の方はお許しください。教育が大きく100年単位で変わったとすれば、大きなトピックスは「印刷の発明」2番目は「産業革命」3番目は「インターネット革命」だと、わたくしは考えています。

印刷が出来た事によって、当時の教材のほとんどは聖書、バイブルだった訳ですが、それが簡単に配布出来るようになった。ですから教会に行かなくても、勉強が出来るようになった。教科書、つまりバイブルを持ち歩いて教育を受けるという事からドイツで大学が誕生したのです。

産業革命で何が起こったかといいますと、当時のイギリスは言葉が何百何十あったのですけれども、英語を国語に定めようと、小学校の義務教育が出来た。文盲を無くそうと、読み書きするものを統一しようという事で19世紀1850年代、世界で初めてイギリスに義務教育が出来ました。

1990年代にインターネット革命が起きました。何が起きたかという、学校が非常に小さな単位になって来た。地域だとか、アメリカではホームスクールと言いますが、家庭を学校として届け出れば、州政府が認めるということ、1981年にワシントン州が始めました。既にアメリカ50州全て、不登校と言わずに「自宅学校」と言って、自宅を学校にすることが出来るのです。

ですから、不登校生が1人もいない、ホームスクーリングをしているからです。最近、もっと先を行って、ロード・スクーリングと言いまして、トレーラーハウスで世界を移動しながら学ぶという、ファミリーが出て来ています。これを行政がどの様に認めるのかという世論が起きて来ています。そのくらい海外は、ダイナミックに動いています。

この3つの現象が起きまして、今、時代は21世紀になり、教育がより個別対応化して来ている。1箇所に集めて先生が指揮をして1つの事を忠実に学ぶと言う事ではなく、1人1人が学びたい事を周りがアシストする。そういう教育者の姿が今は求められて来ている時代だと私達は考えています。

私自身が触発された言葉と概念が、ホームスクーリングという考え方です、それを実際に行っている人達がアメリカでは5%ですから、20家族に1家族がホームスクーリングをしている事になります。ハリウッドの子役達は、ほとんどがホームスクーリングで、家庭教師を雇っているのも、ホームスクーリングの一種とされます。

現在は、少し変形が出ていまして、時々学校で学ぶとか、英才教育を受けるような形も出て来ています。日本では、また学力を付けようという教育に戻って来ていますけれども、点数評価以外の学力診断が、アメリカ等海外では具体的にいろいろ

「学校を地域に取り戻せ」 - 株式会社の実践

るな手法とか考え方が出て来ています。日本は未だに、何かというと点数の方に戻ってしまう事があるのではないかなと思います。

教育権という言葉は皆さん聞きなれない言葉かも知れませんが、「教育権」は、国とか学校にあるのではなくて、親にあるのがアメリカの裁判所の判決文です。ですから、自宅を学校として何故いけないのかという事なのです。これは親の教育権の問題なので、国とか行政はそれを妨げてはいけないというのが、アメリカの最高裁で出た判決文なのです。学習権は子どもにありますけれども、教育権は親にあると言うのが万国共通の自然法の解釈です。このあたりは、日本では中々議論としては出て来ない。教育権は親にあるのだという事を杉並区の住民の方は、是非言っていただきたいなと思います。

学校を作る権利は、納税者にあるというのは、これはアメリカのホームスクールをしている人達の考え方です。ですから自宅を学校として設置するのは、納税者としての権利です。アメリカには教育省がありますけれども、文部省の様な権限を持っていません。日本の文部科学省は凄い組織ですけれども、アメリカの教育省は小さな組織ですので、そういう意味では土台が違います。

私自身が授業を始めた動機は、パソコン通信の経営をしている時に、パソコン通信の電子会議室で不登校生達とディスカッションしていたら、非常に優秀な子供達に出会ったのです。最初に目から鱗が落ちたきっかけになりました。

私自身、中学校時代に 3 ヶ月ほど不登校の早過ぎた不登校経験がありました。担任の教師が少し暴力的な教師で、私は反抗して学校へ行きませんでした。永らく忘れていましたが、自分にも不登校時代があったなと、原体験としてあります。

親は、生まれつき親ではなく子どもがいて初めて親になる。こういう当たり前の格言等も子供を目の前にして私も感じる事が出来ました。こぼれ落ちている学習ニーズがあちこちにありまして、それを私達は拾っているという感じです。公立と私学の学校法人、私学と公立だけではカバー出来ない位の子供達の学習ニーズが、そこかしこに落ちているという実感を感じています。

私学に準ずる特区の株式会社学校という事で、189 番目の通信制高等学校が 2 年前に誕生しました。私は、会社の社長であり、校長と言う肩書きをいただきました。入学式の段取りを見ていますと、とても自分の恥さらしの様ですが、入学式の手順は生徒の目線で考えていなくて、来賓に誰を呼ぶかとか、話しの順番を誰にするのか、町議会の議長等とそのような事ばかりエネルギーを消耗しているのです。入学式の時、入学を許可する許可証を出すという感覚なのです。「これは昔からこの段

「学校を地域に取り戻せ」 - 株式会社の実践

取りなので、日野さん気持ちは分かるけど変えないでくれ」ということなので入学を許可する許可書を出していますがこういう発想が未だにじっくり来ません。

サービス業ですから、許可するというのはどのような事なのかと私自身が迷います。サービス業としていろいろと学校の先生の欠点は、3つの言葉を言えない事だと思います。1つは、「よろしくお願いします。」「申し訳ございません。」「ありがとうございます。」これが本当に言えないのです。

私共の学校も、元教員が大分来ていますけれども、良い人を選んでいるつもりですけれども、どうしても先生と呼ばれると、頭を下げるのが億劫でプライドが邪魔をして頭を下げられない事が良くあります。当たり前前にこの3つの事が、日常動作として言える様にしようと、これは口をすっぱくして毎日言い続けなければいけない。経営理念は、入学した生徒、これからまだまだ個別的な学習ニーズを持っている子供達が全国各地に沢山いるはずなので、その人達に私達の時間の全てを捧げましょうというのがたった1つの創業の理念です。

私達の実践が世の中に届くようにして行こうと、世の中の動きを見据えた中で活動して行こうという事をよく言っています。

四半期ごとに経営方針の発表をしますが、同じ事を繰り返し言います。「基本の徹底」と「変化への対応」と言う事を馬鹿の一つ覚えのようにいつも言います。学校ですから、基本はあってしかるべきですけれども、今は世の中の変化が早いので、変化への対応をしようと、「基本の徹底」、「変化への対応」こればかりを言っています。自分自身にもこの事を言い聞かせています。

学校特区で教育を行う日本で唯一の株式会社でしたが、追従が出て来まして、現在は特区の株式会社通信制高校は13社になりました。私達は独立資本で経営していますが、他の所は学習塾が本業で特区の学校を作る為に株式会社を作るケースが多いので、純粋な意味で学校を作って運営する為に株式会社を作ったのは、日本でこのアットマーク・ラーニングしかありません。だから、誇りを持って経営して行こうと思っています。

ここに上げた行動基本を胆に命じてスタッフ一同が取り組んでいます。通信制高等学校という業界は、現在は規制改革の真っ只中で変化しています。

個別的な学習ニーズは、具体的に属性条件で見えていきますと、今後捉えていきますターゲットとしては、不登校生という事でマスコミ等は、アットマークは不登校の為の学校ですとよく言われます。決して否定はしませんでしたけれども、現象的には不登校かもしれませんけれども、もっと本質的な奥を見ていきますと、子供達

「学校を地域に取り戻せ」 - 株式会社の実践

は自分を変えたいし、目標と夢があるのです。それを分けていきますと細分化していきます。

実際に私達の 2 つの高等学校には、スポーツ選手がいます。サッカーでブラジルに渡ってコリンチャンスというクラブチームに入っている大地君等です。テニスも今はジュニアでベスト 10 に入った男子の選手の内の 3 人が私達の学校に入って、海外のツアーやトーナメントに出場をしています。

普通の全日制高校に行っていたら、ツアーにも参加できないし、フロリダのキャンプ合宿等も参加出来ない、そういう子ども達が現在は少しずつ集まって来ています。バレリーナの女の子達も現在 5 人ほど入学しています。勉強の機会を失った子と自ら勉強をしたい何かニーズを持った子、テーマを持った子が両方入って来ている。

私達の学校に居ないのは、通学を苦にしない、制服を着るのが楽しみ、友達とわいわい話しているのが好き、学校の勉強も苦にならないなどの生徒です。個別的なニーズを持った子どもが私達の学校の対象で、アットマーク国際高等学校の生徒は入学者が 400 人を超えましたけれども、インターハイスクールが 7 年間の累計で 280 名、卒業生が 150 名くらいです。そんな状況になっています。

アットマーク・ハイスクールをリニューアルしたポイントは、今までは英語と日本語の対応しかしなかったのですが、ポルトガル語と中国語の対応を始めます。2007 年の春からは、スペイン語の対応も始めます。ですから、日本語、英語、ポルトガル語、中国語、スペイン語に対応する学校にしようという事で、多言語学校にしようという事です。

実は両親が台湾人というケースが出てきたのです。それで私を変えようと思ったきっかけになりました。お父さんが日本人でお母さんがウクライナ人や在日ブラジル人の人達も何人か入って来ています。したがって親と子が家庭の中で話す言語が、3 カ国語以上というケースが出て来たのです。したがって我々の学校も変わっていかねばいけないと、多言語対応を始める事になりました。

アメリカの通信の高校の単位しか出ませんけれども、日本の高校卒業資格が無くても良い人達がじわじわと増えています。インターナショナルスクールの通信版、日本では他に例のないそういう学校にして行こうと舵取りの矛先を変えていきます。

アメリカのネットスクールの視察をしたのは、7 年前になります。提携したのは、アメリカのワシントン州のアルジャー・インディペンデンス・スクールという、インターネットを使った通信制の先端的な学校です。既に卒業生が 3500 名くらい出て

「学校を地域に取り戻せ」 - 株式会社の実践

います。伝統校でしょうか、校舎が州内に 4 箇所くらいあるのですけれども、教職員と保護者と生徒がみんなでログハウスを作って、それを校舎にし、寮施設もあります。ワシントン州ですから、カナダの国境付近にありますので、ログハウスを建てるのは、「男性は皆がログハウスを建てて当たり前」というような地域なのです。

カリキュラムは、アメリカワシントン州のカリキュラムを導入しました。アメリカのカリキュラムは検定教科書制度がほとんど無いので、教科書探しから始めました。自分にあった教科書を選んだり、探したりする事から始まります。そこが日本とアメリカの教育の大きな違いです。あらかじめ勉強すべき教科書が目の前に積まれるのは、未だに日本の教育の現場ですけれども、アメリカでは自分にあった教科書はどれなのか、考える事が最初なのです。中には、自分で教科書を作ると言う目標設定も可能なのです。こういう所が日本の教育には徹底的に欠けている。最近ではフィンランド教育が、非常に注目されていまして、視察団が日本から行っているようです。話題が今は、アメリカからフィンランドの方へ移っています。

学校行事ですが、毎年 9 月に屋久島キャンプをしています。今年は、生徒 5 名が参加し、引率が 2 名で行きまして、合宿では自分達で自炊をしたりします。1 人引きこもっていた子がおりまして、少し心配なのですけれども、元気に参加出来たようです。その様な事も毎年実施しています。野外での学校行事も今は大事にしています。

アットマーク・インターハイスクールを 2000 年 4 月に始めましたから、いろいろと各方面で応援者が現れまして、国の方が小泉内閣の教育特区で、株式会社の参入を認めようという話が 2002 年の後半に出て来ました。「まさか」という事でしたが、「日野さんも応募して特区申請出したら」という事で、2004 年 3 月に小泉首相から認定証が私達の学校設置の認可書が出ました。石川県の美川町の町長さんのお陰です。

美川町がアットマーク・ラーニング社の誘致を認めて、中学校の校舎を一部貸し出した上で、本校舎扱いにさせていただいて、美川特区アットマーク国際高等学校という学校が出来ました。美川憲一の町、トラックの運転手は良く知っていますけれども、北陸自動車高速道路の脇に看板が立っていまして、町長が大層なアイデアマンで、美川が最初に県庁所在地だった歴史があります。

2005 年の 2 月に合併しまして、石川県白山市、白い山と書きまして、石川県 2 番目の市になりました。私達の学校を認知していただいている自治体は、石川県の白山市です。ですから、学校名も美川特区ではなく白山特区にするべきですけれども、

「学校を地域に取り戻せ」 - 株式会社の実践

無くなった町名をそのまま学校の名称にした経緯があります。

アメリカのオンラインハイスクールは、200校を数えています。好きな時に学校に行く、受けたい授業がある時だけ学校に行くと言う習慣が定着していると思います。後は、地理が不便であると言う事もあるでしょうし、治安の問題もあります。日本とは大きな違いがあるとは思いますが。

せっかく発達普及を遂げている IT を何故使わないのかというのがアメリカ人の発想です。美川特区アットマーク国際高校の場合は、通信制で北海道から沖縄、海外から学んでいる人も何人かいます。日本とアメリカ双方の学習単位を両方出す事と、総合学科もありネイルアート等生活に身近な学習単位認定科目もあります。

1単位が大体 35 時間相当の学習をしています。77 単位取得した時点で、卒業となります。ただ、日本の場合は、3 年在籍の縛りがあります。アメリカの場合は、単位を取得すれば 1 年でも卒業出来ますが、日本の場合は無理なのです。この辺が次の安倍政権下でも、もう一段の規制緩和が出来ると、もっと面白いのにはと思います。

今はキャンパスが石川県金沢と、東京の品川、直営では仙台駅前にもあります。仙台でも、通信制高校のニーズは高まっています。

日本ホームスール支援協会の話題に移りますが、この協会は 2000 年の 7 月に作りました。最近は、ここに在日の外国人のファミリーが入会してこられるようになりました。特に在日ブラジル人の方、ペルーから来られた方が目立ちます。現在未就学問題が、大きな問題になって来ています。不登校ではなく未就学です。学校に行きたいけど行って学べない。教科書も読めない、親に出したお知らせが読めない、したがって学校から足が遠のくというのが、未就学の実態です。大変に深刻な問題になっていて、そういったファミリーがこの支援協会に入会しています。この協会はほとんどがボランティアで、運営している協会ですが、多言語対応を迫られています。

アメリカのワシントン DC にあるアメリカ最大のホームスクール支援団体と提携しています。全米ホームスクール法的擁護協会、リーガル・ディフェンス・アソシエーションと言う名前で、これは弁護士達が創立した協会です。

アメリカでもやはりホームスクールは、「結局は不登校ではないか」「親が教育の責任を放棄しているのではないか」と、両院議会で法案が提出されたりする事が今でもあるのです。その時に協会が議員事務所に FAX したり、メール抗議をしたりして法案提出を断念させるのです。アメリカのロビイスト団体や業界団体が法案阻止に良く使う手なのです。

「学校を地域に取り戻せ」 - 株式会社の実践

学校は、定義としては心行くまで学ぶ事を赦される場所である。生徒が中心だと思えます。子ども達が行きたがる。今週はこれを勉強したい。今週はこれに取り組みたいと言って貰えるべき場所ですが、現状ではそうっていないというのが私自身が負に落ちない点であります。学校は学ぶ事をエンジョイ出来る場所であるべきである。納税者が設置できる場所であると言う風に定義づけをしています。

比較的これに近いのが、大正デモクラシーの時に出来た「玉川学園」や「自由学園」「池袋女学園」等です。関西方面ですと「灘高校」という、灘の清酒メーカーの4人のオーナーが創った私学が有名です。国の決めた指導要領を一切従わない学校を作ろうと昭和初期に出来た学校です。東武鉄道の「武蔵」です。骨っぽい学校の校風があるこの学校は、どことなく生徒中心とか、生徒を主役に興すとか、という発想が今でもあります。

自由学園、この学校も全寮制で、黒柳徹子さん等、いろいろな有名人が出ています。この学校も生徒主体の考え方です。教職員の先生方に聞くと、自労自治の精神をとうとうと語ってくれます。百何十年の歴史があっても、歴史と伝統を忘れていないのだなと思えます。

高等学校とは何か、卒業を見据えて次に社会とか大学が目の前に来ていますので、やがて1人立ちする場所、独立する為の最後の予行演習の場所であるとはっきり生徒達にも保護者会でも言っております。

相談相手や議論できる場所を探す、親友を探す、出来れば、生涯を付き合える友人が出来ると更によろしいという事です。1人では、出来る事が限られています。リレーションシップとパートナーシップを会得していただきたいなと思っております。

教育される場所ではなく、自ら学ぶ力を付ける場所である。これは私どもの特別顧問の杉並区在住の成毛眞（元マイクロソフト社長）がよく言う言葉です。彼がマイクロソフトの社長時代に「社長になった時は50名の社員だったが辞めるまでに800人の採用面接をした。どの様な人間を採用すればいいのか分からないので、学ぶ力を持った人材を採用しよう」と言うのが、彼の方針であったといえます。

このアットマーク・ラーニング社が運営する学校は何の為に存在するのかというと、生徒達が生涯を通して学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける為に、「自習力」「自学力」これが1番のテーマです。生涯、先生やコーチがつききりでいる事はないと考える方が良いと思っておりますので、「1人で生きて行ける様に、在学中は脇にいる大人達、コーチ、先生方をフルに活用しなさい」と言っています。提携校のアルジャーという学校が掲げる生徒像はインディペンデント・ラーナーです。自主独立の学習者になる

「学校を地域に取り戻せ」 - 株式会社の実践

う、これを私達も標語として掲げています。

<インディペンデント・ラーナーになるための保護者の役割>

- ・子どもを批判するのではなく、こどもの個性を褒め称えよう
- ・子どもの伴走者・応援者としての役割を避けるのではなく引き受けよう
- ・子どもに対して無意識に反応するのではなく意識的に対応しよう
- ・学校以外の学習環境を除外せず、学習とはなにかについての視野を広げよう
- ・偏差値による評価をやみくもに支持し、その位置づけで子どもを定義することをやめよう

基本的に基礎学力が大事であると考えています。それから応用学力をどの様に使うのか、という価値観も大事であると考えています。受験学力も大事であるが、ただし、自分がトライして見たい、チャレンジしたい、国家資格や上級学校等に行く場合に、やはり目標が決まれば、主体的に受験学力を取得したいと思うのです。受験学力は、自分で決めた道をチャレンジする目標をクリアする為に当然超えなくては行けないハードルであるわけです。

他のどの学校も言っていない事として、未来学力という言葉を重ねています。大人達は後20年から40年のレンジでしか考えられないですが、子ども達は16歳とすると、60、70年程ある訳です。

60年間生きて行けるだけの自学自習力を高等学校の3年間で、養えるかどうか保証は出来ないのですが、しかし、何時いかなる時にどのような状況に世の中が変化しても生き抜く事が出来るような、その時々自分の足りない学力はこれだと意識し果敢に取り組める様な、そういったチャレンジ精神をつかんでほしいのです。

教育界でコーチングという言葉が5、6年前位から言われ始めました。コーチングとは何かと、調べに行ったり、社員に調べに行き詰ったりしました。ティーチングだけでは、子ども達と先生の関係は良くなりません。そこでコーチングです。これは日本語に訳すと「動機付け」等になりますが、コーチングと言う言葉にしています。

<コーチングとは何でしょう>

- ・子どもがよりよく学べ、大きく成長できる条件
- ・自分は自ら望む方向へ自らの力で進む力を持っていると自覚できること

「学校を地域に取り戻せ」 - 株式会社の実践

- ・ 計画作りに自ら関与していると実感できること

子ども達に考えさせる。自分自身に考えさせることが大切です。本人に考えさせない質問であるクローズドクエッションを使わない。クローズドクエッションと言うのをご存知でしょうか。質問すると「イエス」「ノー」の2つしか答えが無いクエッションです。

「好きな食べ物は好み焼きですか？」と言うのが、クローズドクエッションです。そうではなく「好きな食べ物は、なんですか？」と言うと、本人は考えます。「自分はなんだろう」これがオープンクエッションです。コーチングはクローズドクエッションを使わないのです。「何故」と言う言葉も相手に脅迫感を与えます。「どうして」と言う頭の中が真っ白になります。「何故」「どうして」をなるべく使わないと言うのが、コーチングの原則なのです。

その代わりに、「何があれば、やる気になりますか」とか、「誰と一緒にやりますか」とか、「何時までにやりますか」と言う事、WHO・WHEN を使うのです。コーチングは1年ぐらいかけて学ぶプログラムがありますが要点はこの2点になります。これだけを気を付けていただくと、相手に深く考えさせる事が出来るのです。子供達に対して「何故」と言う時、この問いが関係を悪くする。「何をしたら出来たのか」と言う時、子ども達が真剣に考え始めるのです。「誰と一緒にしたら、出来たのか」「何時までに出来るかな」と言った問いかけをすると、自分自身で考えるようになってきます。学習する態度を植えつける為に、私達はコーチングする事に真正面から取り組んでいます。

子ども達に自分自身が認められている、信頼されている感覚を持たせるのです。自分自身に解決能力があるのだという事をセルフ・ドライブと言いますが、自分自身に解決能力があると言う事を信じ込ませるのです。また、コーチも信じる事です。子どもの中には、宝物が沢山あるのだという事を信じ、そう言った接し方を常々私達はする様にしております。

計画作りに自ら関与する。例えば、皆様方が日曜日にこういう光景に出くわした事はないでしょうか。夫婦が両方働いていて、日曜日に男性が横になって中々起きて来ない。奥さんがカリカリして、食器洗いしたり、洗濯物をしたり、布団干しをしているのに場面です。ご主人も実は掃除くらい手伝おうかなと、掃除機くらいかけようかなと思っている矢先に奥さんが「あんた、日曜日にわたしこんなに働いているのを見て分かるでしょ。どうして手伝ってくれないの」「掃除機くらいかけてよ」

「学校を地域に取り戻せ」 - 株式会社の実践

と言われて取り組むのと、「そろそろ手伝おう」として取り組むのと、どちらがパフォーマンスが良いと思いますか。

自分で「俺、手伝うよ」と、「今日は掃除機をかけるよ」と言うのと、「あなた、掃除機くらいかけてよ」と言われるのと、どちらがその後に綺麗になるのかと言うと明らかです。これは、学習の現場でもそのまま言えるのです。子ども達に「これをやりなさい」と言うのと、子ども達自身が「これをやってみるよ」と言うのでは、後の成果が全然違うのです。

やるべき事は本人も分かっているし、周りも分かっているのだけれども、本人に言わせる事なのです。「僕がこれをやります」「私がこれをやります」と、言わせる。これがセルフコミットメントで、これがコーチングの目指す1つのイメージです。

お子様がインディペンデント・ラーナーになる為の、保護者の役割として5つを常々言っております。逆に言うと、失敗する為には4つをすれば確実に教育に失敗します。子ども達が駄目になります。これはじっくり読んで頂けると分かります。「私はこれをとっくの昔から気付いていて、やってきたわ」と言う方も、沢山いらっしゃると思います。

失敗することは解決を与えるのではなく、こどもへ罰を与えることになる。「恫喝」「恐喝」は、親が知らず知らずのうちにしている事です。目標設定をせずに成功より失敗に目を向けます。出来た事よりも、出来ない事にどうしても目を向けてしまう事です。目標なく頑張り頑張りと言う。頑張りと言う言葉は、死語にした方が良いのではと思います。「頑張り」と言うのは、何をさすのか。わたし達は「頑張り」という言葉も出来るだけ、禁句にしようとしています。「何をどう頑張るのか」「何をどう取り組むのか」を生徒とコーチが同意を作ろうという風によく言っています。

第2部に参ります。

ユーメッセージとアイメッセージという物がありまして、「あなた」が主語の場合がユーメッセージです。「わたし」が主語の場合がアイメッセージです。これは良くわたし達は、意識して使います。

少しお聞きしますが、最近、プチ自慢のある方に聞きます。自慢に思えた事、皆さんに知って欲しい事、知らせたい事、何か嬉しかった事、小さな事で良いのでプチ自慢を言いたい方は名乗りでてください。

男性：昨年、絵本の読みきかせ勉強をしまして、機会があり保育園に読み聞かせに行きました。2、3歳の幼児に読むのですけれども、可愛いですね、目をきらきらさせて、読み聞かせると喜んで聞いてくれて、場合によってはストーリーの中に入

「学校を地域に取り戻せ」 - 株式会社の実践

り込んで相槌を打っている。このような楽しい経験をしていますと言うのが、自慢です。

では、同じグループにいる方、最初のひと回りをユーメッセージで今の発言なさった方に声をかけてください。私に一番近い方から、今のプチ自慢に対してユーメッセージで一言のメッセージをお願いします。

男性：楽しい事をおやりになったんですね。

女性：あなたのうらやましい光景が目には浮かびました。

男性：あなたは素敵な時間を過ごしましたね。

女性：あなたは楽しそうですね。

男性：あなたは頑張りました。

講演者：今日は凄く質が高いです。

次はアイメッセージをお願いします。

女性：私はうらやましくて、私もやりたいと思いました。

男性：私も子どもと一緒にやりたいなと思いました。

女性：うちの姪と甥達にも聞かせてあげて欲しいと思います。私は参加させたいと思います。

男性：私は、どちらかと言うと、子どもになって1回聞きたかったです。

講演者：凄く皆さんは褒め上手です。

ユーメッセージとアイメッセージと両方をお聞きになって、率直な感想をお願いします。

男性：一般的にはユーメッセージよりも、アイメッセージの方が感動は深いのです。

講演者：

ユーメッセージは上手だったのであまり違いが分からなかったがアイメッセージは私も勇気付けられました。私も頑張ろうかなという気になり私も取り組もうと思いました。この方が相手に伝わるメッセージのパワーが強いのです。

子ども達と接すると、はっきり違います。何故か分かりますか？何故、アイメッセージの方が効くのか。大人から認められたのだと、自分も人に影響を与えられるのだと思った時に、感動が深くなるのです。

不登校や引きこもりの子どもに対しても、かなり有効に効くケースがあります。自分は駄目な人間だ。誰にも影響を与える事が出来ない。結局は何をしても駄目なのだと言う。アイメッセージで変わったと言う、ケースが幾つもあります。

例えば、7年間も引きこもった子どもがいます。私共のコーチがコーチングを何度

「学校を地域に取り戻せ」 - 株式会社の実践

もしました。その子どもは、「何をしても駄目だ」「何をしても出来た事はない」「集中して継続できたためしがない」と、心療内科の投薬を受けていました。心療内科へ通っても、鬱の症状が厳しくなって来た。その子どもに先生方がどのような対応をしたかと言いますと、「本当に何も続かなかった？」と聞きました。「継続できた事は何か無かった？」

「無かった」「僕は何をしても駄目だった」「この世の中から、いなくなっても良いと思っている」と答えました。ところが、「7年間は鬱を続けているよね」それだけ聞いていると、誤解を与えますが「7年間、鬱をしているじゃない」「ちゃんと継続して、鬱に立ち向かうことって結構厳しいよね」「なかなかみんな負けちゃうけど、負けずにやっているじゃない」「すごいよ」と、「人間はカーブがあって、良い時と悪い時があるので、たまたま今は悪い時かも知れない。後は上がって行くだけじゃない」と言う言い方をしました。

そうしたら、変わりました。これは本当に見事に変わりました。率先してまとめ役になって、プロジェクトのリーダーシップを取っています。ここに再度アイメッセージを聞かせるのです。「先生もみんなも勇気を貰っている」「そこにいて生きていくし、きちんと戦ってきたしね」そういう言い方をしただけで、変わってきた例があります。

コーチングとティーチングとカウンセリングの違いとは、3つのスキルの違いです。カウンセリングは、心理的に安寧を与えるもので、わたし達は「ゼロ地点からマイナスに落ちてしまった子ども達には、カウンセリングが効く」と言います。「ビロー・ゼロ」と言い、マイナス地点の子ども達にいくら頑張れと励ましたり、凄いねと言っても中々聞きません。それよりもじっくり話を聞いてあげる事です。

カウンセリングは、過去に関心が向きますし、また向かせるようにします。カウンセリングは過去で、コーチングは未来なのです。「これから、何をしようか」「7年間鬱をしていたのは分かるが、今日のこの1時間に何が出来る事は無いか」最後はその部分へ持って行きます。

「この1日で取り組める事は無いか」を「夢や目標はないか」を本人に言わせて、「その為にこの1時間で何が出来るのか」と言う、動機付けをわたし達はします。

ティーチングは、目標とするものが見つかった時に、ティーチングします。「知りたい」「してみたい」と言う欲求が出てきます。その時に見本を見せたり、知識を与えたりします。コーチングとカウンセリングとティーチングの3つが必要で、中にはメンタリングなどと言う事もありますが、これから先の教員のスキルはこの3つ

「学校を地域に取り戻せ」 - 株式会社の実践

が持っていた方が良いと思います。どうしても、日本の教員の免許を取って教育学部を出た人は、ティーチングメソッドオンリーです。

教え込む事に力を入れて、子ども達から聞くと言う態度が無いのです。聞いたり、先ほどの様にアイメッセージと言うのが中々言えないのです。これは相当に意識してやらなければ出来ません。